

お遍路日記

牟田和男
正木康

海鳥社

はじめてのお遍路

なりゆきでお遍路になった。

私たちは元をたどれば中学からの友人同士で、つきあいも四十年を超えるが、実態は医者（牟田和男）と事務屋（正木康）という面白くもないコンビである。仕事の都合で遍路には連休利用で年間三、四回行けばいいほうだ。書き出しがいつも「あわただしく……云々」となっているのはそのせいである。

回りだした当初は、お遍路は年配者が多く若い人は少ないだろうと予想していたが、実際には歩き遍路には若手も多い。年配者はバスや車で回ることが多いのであろう。私たちは、仕事の合間を縫っての遍路なので、①原則として歩く、②やむをえない場合は乗り物も可、③区切り打ちなので、前の終わりと次の始まりの間はカットする、というきわめて柔軟な、というか軟弱な、というか都合の良いルールを定めた。もちろん②の「やむをえない場合」に相当するかどうかの解釈は広義を旨とし、今までもめたことは一度もない。

このやりかたで何とか回りきるのに五年かかった。行く度に所属法人の広報誌に旅行記を載せる。本書はその連載をまとめたものである。一回の紙数はわずかでも、五年分とな

るとかなりの量になり、番外編まで加わってこんな大部なものになってしまった。

最近宗教ブームと聞く。お遍路も例外ではなく、旅行社は遍路ツアーに企画を凝らし、テレビやラジオの番組まであると。確かに本屋に行っても遍路の本があふれ、ネットでも際限なくヒットする。これほどの情報過多の中に割り込んで一隅を占めるだけの価値があるか、本の厚みを見ながら忸怩^{じくじ}たるものを感じる。しかしまあ、初老期のおやじ二人の「はじめてのお遍路」として、ご寛恕^{かんじょ}いただければ幸いである。

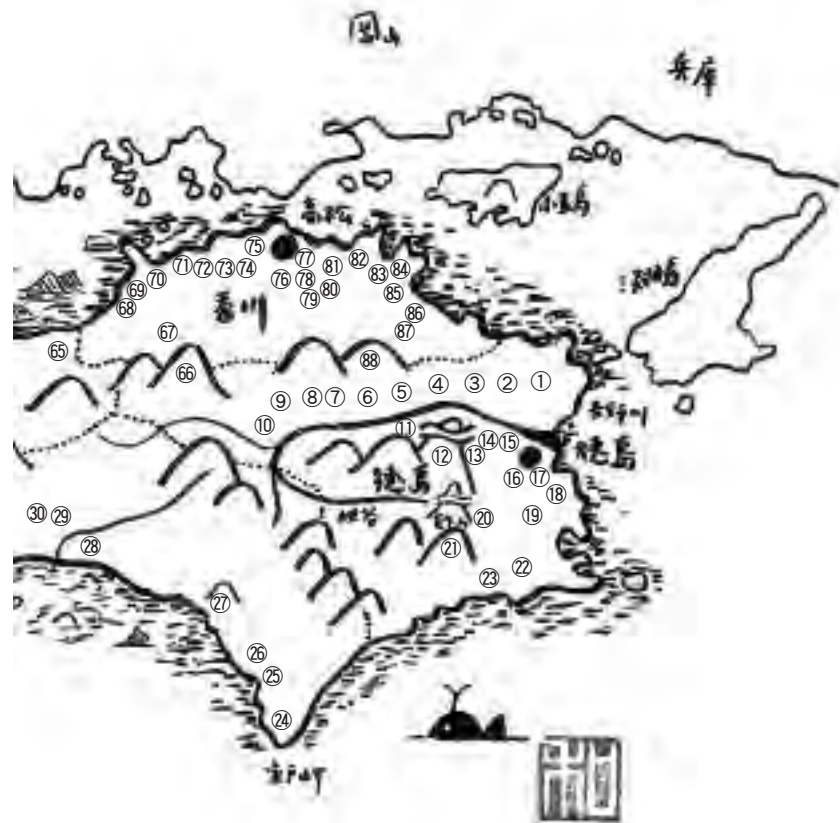
正木 康
牟田和男





四国八十八箇所

- | | | |
|-------|-------|--------|
| ① 霊山寺 | ② 焼山寺 | ③ 薬王寺 |
| ④ 極楽寺 | ⑤ 大日寺 | ⑥ 最御崎寺 |
| ⑦ 金泉寺 | ⑧ 常楽寺 | ⑨ 津照寺 |
| ⑩ 大日寺 | ⑪ 国分寺 | ⑫ 金剛頂寺 |
| ⑬ 地藏寺 | ⑭ 観音寺 | ⑮ 神峯寺 |
| ⑯ 安楽寺 | ⑰ 井戸寺 | ⑱ 大日寺 |
| ⑲ 十楽寺 | ⑳ 恩山寺 | ㉑ 国分寺 |
| ㉒ 熊谷寺 | ㉓ 立江寺 | ㉔ 善楽寺 |
| ㉕ 法輪寺 | ㉖ 鶴林寺 | ㉗ 竹林寺 |
| ㉘ 切幡寺 | ㉙ 太龍寺 | ㉚ 禅師峰寺 |
| ㉛ 藤井寺 | ㉜ 平等寺 | ㉝ 雪隠寺 |



- | | | | | |
|--------|--------|-------|--------|-------|
| ③ 種間寺 | ④ 岩屋寺 | ⑤ 泰山寺 | ⑥ 大興寺 | ⑦ 郷照寺 |
| ⑧ 清滝寺 | ⑨ 浄瑠璃寺 | ⑩ 栄福寺 | ⑪ 神恵院 | ⑫ 天皇寺 |
| ⑬ 青龍寺 | ⑭ 八坂寺 | ⑮ 仙遊寺 | ⑯ 観音寺 | ⑰ 国分寺 |
| ⑱ 岩本寺 | ⑲ 西林寺 | ⑳ 国分寺 | ㉑ 本山寺 | ㉒ 白峯寺 |
| ㉓ 金剛福寺 | ㉔ 浄土寺 | ㉕ 横峰寺 | ㉖ 弥谷寺 | ㉗ 根香寺 |
| ㉘ 延光寺 | ㉙ 繁多寺 | ㉚ 香園寺 | ㉛ 曼荼羅寺 | ㉜ 一宮寺 |
| ㉝ 観自在寺 | ㉞ 石手寺 | ㉟ 宝寿寺 | ㊱ 出釈迦寺 | ㊲ 屋島寺 |
| ㊳ 龍光寺 | ㊴ 太山寺 | ㊵ 吉祥寺 | ㊶ 甲山寺 | ㊷ 八栗寺 |
| ㊸ 仏木寺 | ㊹ 圓明寺 | ㊺ 前神寺 | ㊻ 善通寺 | ㊼ 志度寺 |
| ㊽ 明石寺 | ㊾ 延命寺 | ㊿ 三角寺 | ㊽ 金倉寺 | ㊾ 長尾寺 |
| ㊿ 大宝寺 | ㊿ 南光坊 | ㊿ 雲辺寺 | ㊿ 道隆寺 | ㊿ 大窪寺 |

お遍路日記●目次

発心の道場 阿波の国・徳島

- 16 「お遍路さん」の出来上がり 平成16年10月◎1番・霊山寺↓10番・切幡寺
 28 踊る心臓、笑う膝 平成17年7月◎11番・藤井寺↓19番・立江寺
 43 やっぱり遍路は秋がいい 平成17年10月◎20番・鶴林寺↓23番・薬王寺

修行の道場 土佐の国・高知

- 58 夏の海と列車とメガネ 平成18年7月◎24番・最御崎寺↓29番・国分寺
 73 諸行無常ー遍路道に思う 平成18年10月◎30番・善楽寺↓37番・岩本寺
 87 土佐も見おさめ 平成18年11月◎38番・金剛福寺↓40番・観自在寺
 94 寄り道 四万十川 平成18年11月◎四万十川

菩提の道場 伊予の国・愛媛

- 104 いよいよ「いよ」へ 平成18年11月◎38番・金剛福寺↓48番・西林寺
 116 真冬の温泉をめざして 平成19年2月◎49番・浄土寺↓51番・石手寺
 121 罪滅ぼしか、初老期うつ病対策か 平成19年5月◎52番・太山寺↓55番・南光坊
 128 まさかの船旅 平成19年9月◎56番・泰山寺↓59番・国分寺
 135 台風、タクシー、ロープウェイ 平成19年9月◎60番・横峰寺↓71番・弥谷寺

涅槃の道場 讃岐の国・香川、そして中国へ

- 152 いざ、空海生誕の地へ 平成20年4月◎72番・曼荼羅寺↓75番・善通寺
 160 寄り道 祖谷溪 平成20年7月◎祖谷溪
 170 還暦に無理は禁物 平成20年7月◎76番・金倉寺↓80番・国分寺
 176 ここから先は歩くべし 平成20年9月◎81番・白峯寺↓86番・志度寺
 186 中国二十一世紀の古都の風景 平成20年10月◎洛陽↓西安
 200 寄り道 石鎚山 平成20年11月◎石鎚山

208	どうか結願	平成21年6月◎87番・長尾寺↓88番・大窪寺
222	長崎空海はここから唐へ旅立った	平成21年8月◎五島
227	長崎空海にあやかり、海路五島へ	平成21年9月◎五島

最後の道場 高野山、そしてインドへ

236	最後の修行	平成21年11月◎高野山
242	中国 中国人もびつくりの僻地へ	平成21年11月◎寧波↓天台
260	インド 釈尊入滅の地と思う	平成22年2月◎インド・クシーナガル
270	インド 清濁あわせのむカオスの世界	平成22年2月◎インド・ワラーナシー
277	インド 郷に入らば郷に従え	平成22年2月◎インド・ブツダガヤ
290	高野山ふたたび	平成22年11月◎高野山

297	四国遍路を終えて	正木康
302	あとがき	牟田和男

発心の道場

阿波の国・徳島

徳島県



「お遍路さん」の出来上がり

「1番・靈山寺↓10番・切幡寺」

午前、いつもどおりの外来を終えて、昼過ぎ、福岡空港へ。台風之余波で出発がかなり遅れたプロペラ機YS11に揺られ、夕暮れの徳島空港へ降り立つ。

まずは阿波名物の鶏料理で明日からのお遍路の壮行会をする。名物にうまいものなし、博多の地鶏のほうが絶対うまい。たまたま入った「油そば」という店の、細麺を油と赤味噌にからめたスープなしのラーメンがうまかった。明日に備えて早めに寝るが、なかなか寝つけない。

.....10月10日・白曜日

第一番札所 靈山寺 りようせんじ

日頃の行いがよいせい快晴。JR徳島駅六時四十三分の高松行きの鈍行に乗り、四国の大河・吉野川を渡ると七時十分には板東駅ばんどうに到着。車中、我々以外にも遍路目的とおぼ

しき乗客がちらほら、結構若者も多く、やはり同じ駅で皆降りる。

古い街並みを抜けると、第一番札所・靈山寺の山門が現れた。すでに境内にはお遍路姿の善男善女が充満。やはり中高年の女性が圧倒的に多い。まずはお坊さんの勧めるお遍路グッズをそろえる。般若心経、納経帳、蠟燭ろうそく、線香、納札、それらを入れる「同行二人」と書いた遍路袋、白装束、掛け軸、それに金剛杖。松竹梅の竹レベルだが、かなりの出費。なかなか商売上手である。

一人前の遍路姿になって、本堂で開経偈かいきょうげ、般若心経を唱え、納札に日付、住所、名前を



第一番の札所靈山寺



いよいよ出立靈山寺



左右の仁王がお出迎え

記入して集札箱に納める。太子堂で同様のお参りをし、最後に納経所で納経帳と掛け軸にお寺の御名と朱印をいただき、納経料を納める。あまねく四国を回り、これを八十八回打ったら、お礼参りとしてまたこの発心の寺に戻る。そして成就の証をいただいて高野山に参るのが手順の由。なるべく歩くとすると、いつ戻れるか気の遠くなる話である。すでに始める前から決心が揺れる。

第二番札所 極楽寺 ごくらくじ

まずは霊山寺門前の「門前うどん」で、朝飯の山菜うどん。秋にしては強めの日差しの中を県道沿いに第二番札所・極楽寺まで一・一キロ、足慣らし、腹ごなしに丁度よい。さっきの遍路客を満載した貸し切りバスがどんどん追い抜いていく。マイカーも多い。遍路姿のバイク、自転車もどんどん追い抜いていく。

約二十分で赤い山門が見えてきて、左右の仁王様がにらんでいる。このお寺は安産、子宝にご利益がある。県道で我々を追い抜いた団体は、お参りも終わってバスに乗り込んで

いた。客がお参りしている間に、添乗員があらかじめ預かった納経帳、掛け軸に記帳を済ませ、客がバスに戻ってきたときにはもう配っている。まことに日本的で、極めて手際がいい。

第三番札所 金泉寺 こんせんじ

県道から旧道の遍路道に入る。地図には三・一キロとある。揺れる稲穂の中に点在する集落をつなぐ道を歩く。小奇麗な古い町並み、旧家の屋根、石塀の上には恵比寿さんの置



大師の命名長命杉



秋風涼し金泉寺



桃が昼食大日寺

物が笑っている。ところどころに古い石の道しるべが立っていて、彫られた指が次の札所の方角を示している。まだ疲労感はない。まだまだ相棒と話しながら歩く余力あり。

木立の中の坂を昇りつめると金泉寺。平均的日本人がイメージする田舎の墓寺といったたずまい。鄙びひなていい。読経する気恥ずかしさもなくなった。

第四巻札所 大日寺 だいにちじ

次の大日寺まで近道をしようとしたのが大失敗であった。地図上では通常のはさま遍路道より少し短く見えた道は、どうも山の中の産業道路だったようで、山の狭間をうねうねと上がったたり下ったり。歩く我々のすぐ横を、ダンブが大音響とともにぶっ飛ばしていく。

昼下がりの炎天下、おまけに雲一つない。じりじりと照り焼き状態、のどはひりひり、腹も減るが、民家もなければ、自動販売機一台ない。

結局、約七キロを二時間半もかかり、小高い丘の上の大日寺にやっとたどり着く。涼風

が汗まみれのほほに快い。門前に売っていた桃を遅い昼食代わりにかじりながら出発。

第五巻札所 地藏寺 じざうじ

大日寺までの登りの長歩きの後は、ゆっくりした下り坂を一・七キロ、地藏寺に着く。そろそろ足が痛くなってきた。人気のないこと以外、印象が薄い地味なお寺だった。



地藏の接待安楽寺

第六巻札所 安楽寺 あんらくじ

だんだん日が傾いてきた。時々ぱらぱらと雨が落ちてくる。風も生暖かい。かかとが痛い。ふくらはぎも痛い。案内板を見ると安楽寺までまだ三キロもある。昼飯を食べ損ねて力が出ない。疲れのため、話すのも億劫になり、二人とも無口。

そのとき、後ろからおばさんが自転車を追ってきて、「もしもし」と声をかける。途中なか落とし物でもと思つたら、「これでなにか飲んでください」と、百円硬貨二枚を渡して立ち去った。初めてのことで呆然



阿波の名刹熊谷寺

第八番札所 熊谷寺 くまだにじ

歩き遍路のルートには、地元の「へんろみち保存協力会」が道沿いのガードレールや電柱に遍路姿のシールを貼って目印にしてくれている。道筋を指してくれ

アサロンパスをたつぷり吹き付けて寝たが、足腰の痛みは治らず、年を感じる。

朝食をありがたういただいて六時半出発。次の十楽寺は歩いてすぐのところらしい。お寺はどこも七時から受付開始なので、ウォーミングアップのつもりでゆっくり歩く。このあたりは吉野川の流域平野と讃岐山脈との境で、北は山だが道は平坦。早朝の空気が

清々しい。

十楽寺は龍宮城のような赤と白の山門が印象的だ。

作法どおり一礼して入門、手水を使う。あらためて境内を見回すと、建物が新しいのか清潔感のあるお寺である。参拝後、納経所で朱印をもらいながら情報収集。次の熊谷寺まで約一時間とのこと。記念撮影などとして出発。



同行二人かげぼうし



くさもみじ龍宮城や十楽寺

としたが、これが「お接待」らしい。このご時勢、本当にありがたいことだ。突然、足が軽くなる。

夕方、どうにか温泉山安楽寺にたどり着き、宿坊に泊まる。天然温泉につかった後のビールは本当にうまかった。

(和)

第七番札所 十楽寺 じゅうらくじ

遍路の朝は早く、五時半には起床した。お互いのいびきで寝不足気味。二人とも足にエ

.....10月11日・月曜日

牟田和男（むた・かずお）

内科医、昭和23年、福岡生まれ。干支はネズミ、
星座はおとめ座。昭和40年代の20歳台、大学紛
争真直中の青春時代。昭和50年代は大学病院の
医局員、ひたすら臨床と妻子のためのアルバイト。
昭和62年、福岡市早良区で開業、いつの間
にか、4半世紀が経過。団塊世代の医師の典型
的な軌跡を辿る。趣味は読書、旅行。

正木康（まさき・やすし）

昭和23年、福岡市生まれ、昭和42年、福岡県立
修猷館高校卒業、昭和46年、中央大学卒業。平
成4年、東京から福岡に転職。平成16年から医
療法人誠和会、平成22年から社会福祉法人誠和
会に勤務、現在に至る。



へんろにっき
お遍路日記



2012年5月26日 第1刷発行



著者 牟田和男 正木康

発行者 西 俊明

発行所 有限会社海鳥社

〒810-0072 福岡市中央区長浜3丁目1番16号

電話092(771)0132 FAX092(771)2546

編集協力 有限会社FMS

印刷・製本 大村印刷株式会社

ISBN 978-4-87415-851-7

<http://www.kaichosha-f.co.jp>

[定価は表紙カバーに表示]